



イベントカレンダー

くらしのゆとり相談会
(下水道フェア)

と き 9月12日(土) 9:00~16:00
 ところ 久米川駅南口広場
 内 容 雨水浸透施設のピーアール及び相談窓口の設置
 雨水浸透施設の実際のモデル展示
 雨水浸透施設の効果や水循環に関するパネル展示
 雨水浸透施設を活用した子供向けのゲーム ほか
 主 催 東村山市下水道課、東村山市管工事組合

問合せ先

TEL: 042-393-5111 (内 2785) (都市環境部下水道課: 天明)

富士見江川・川まつり
~江川のさかなしらべ~

と き 9月13日(日) 10:00~12:00
 ところ 山崎公園(埼玉県富士見市大字水子184番地)
 内 容 お魚とり、水生生物調べ(道具はお貸しします)
 持ち物 (暑いので)帽子、水筒、虫除けスプレーなど
 ぬれてもいい格好(サンダルは流されるのでダメ)
 主 催 ふじみ環境クラブ、生活クラブ生協富士見三芳支部、
 (財)埼玉県生態系保護協会富士見支部

問合せ先

049-251-9659 (ふじみ環境クラブ: 河原井)

三富(さんとめ)企画展「三富をうつす」
~先人から受け継がれてきた三富地域の良さをパネルや作品で紹介~

と き 9月19日(土)~23日(水・祝)
 10:00~16:00(23日は15:00まで)
 ところ 鏡山酒造跡地(川越市新富町1丁目10番1)
 内 容 パネルやオブジェ、木工製品等の展示
 三富材木工製品などの販売、
 木工教室や伝統的な技術職人の紹介 ほか
 参加費 無 料
 主 催 三富地域農業振興協議会

問合せ先

TEL: 049-242-1810 (川越農林振興センター: 長谷部)

柳瀬川・野鳥&川の生き物ウォッチング

と き 9月20日(日) 9:00~12:00(雨天中止)
 ところ 志木中学校前の柳瀬川・土手集合
 内 容 <野鳥>柳瀬川に沿って約4km 弱を散策しながら調査
 持ち物: 季節の対策、あれば双眼鏡 等
 <川の生き物>柳瀬川で生き物・水質調査やごみ拾い
 持ち物: 季節の対策、川に入れる格好、あれば手綱 等
 参加費 200円(中学生以下は無料、1家族1名扱い)
 主 催 NPO 法人 エコシティ志木

問合せ先

048-471-4275 (毛利)

事務局だより

第16回、川づくり見学会・交流会を開催しました。

去る8月9日に、不老川の川づくりをテーマに、見学会・交流会を開催しました。当日は総勢28名で、上流から下流までの各ポイントを見学し、意見交換を行いました。当日の様子については、次号の里川に掲載予定です。

連絡会では他にも様々な行事を企画しています。里川でもお知らせしていきますので、是非参加してみてください。



川づくり連絡会に参加してみませんか?

原則第2火曜日に新河岸川流域川づくり連絡会を開催しています。参加希望の方は、下記事務局までお問い合わせください。(開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。)

しんぶん「里川」掲載情報を大募集します!

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙またはFAX・メールにて事務局までお寄せ下さい。

■連絡先

新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
 (国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)
 〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
 TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
 URL <http://www.ara.go.jp/arage/shingashi/>
 E-mail shingashi@ara.go.jp

THE SHINGASHI BASIN NEWS
新河岸川流域しんぶん里川
SATO-GAWA

VOL. 57

発行●新河岸川流域川づくり連絡会(荒川下流河川事務所 調査課内)
 住所●東京都北区志茂5-41-1 TEL03-3902-3220 FAX03-3902-2346
 発行日●平成21年(2009)9月7日



切り絵 毛利将範

夏休みもそろそろおしまい...今年の夏はどのように過ごしましたか。楽しい思い出がたくさんできましたか。新河岸川流域ではこの夏も各地で川まつりが開催されました。照りつける太陽の下、キラキラ輝く冷たい川の水に触れるのはとても気持ちがいいですね。ところで、みなさんは川の水がどこからやってくるのかご存知ですか? 今号では新河岸川流域の「水循環」について特集しています。来年も再来年も、ずっと先の夏にも、みんな川あそびができるまちでありたいですね。

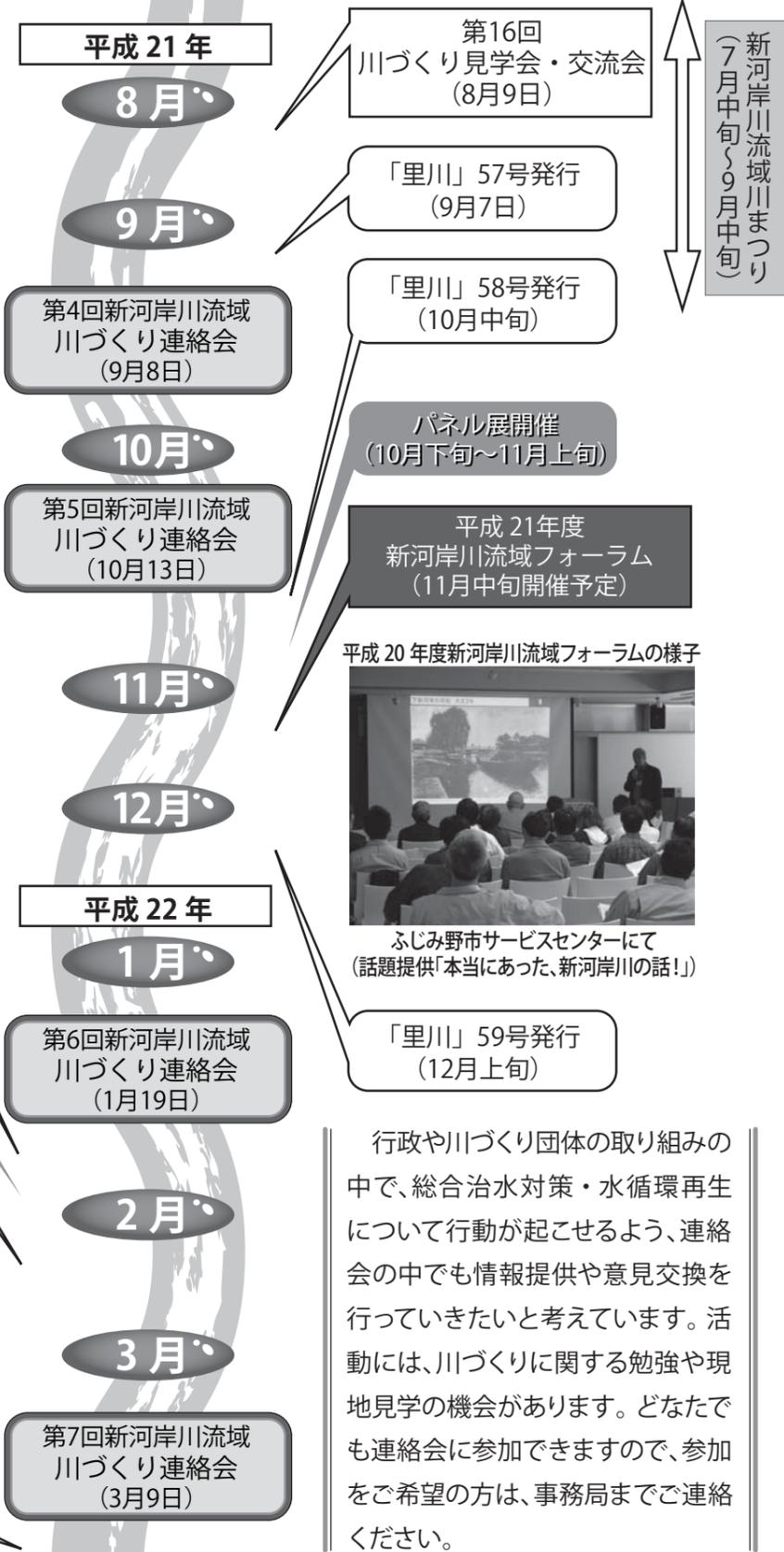
目次

- P2 平成21年度新河岸川流域川づくり連絡会
年間活動予定
- P3 連載: 流域の川をたずねて(4)
- P4 イベント・事務局便り
- P5 特集: 健全な水循環を取り戻そう!

新河岸川流域川づくり連絡会 平成21年度年間活動予定 平成21年8月～平成22年3月

平成20年度は、これまでに新河岸川流域川づくり連絡会によって蓄積された知識や活動の成果をもとに、流域内の行政・川づくり団体等と連携し、「市民ですすめる川づくり」をテーマに活動を行いました。連絡会への参加は、徐々に広がりを見せています。

平成21年度は、昨年度のテーマを更に具体化させた取り組みが行えるように「市民ですすめるいい川づくり」をテーマとし、流域市民の方々に総合治水対策を広めていきます。また一方で、新河岸川流域は急速な都市化によって、洪水によるはん濫や河川流量の減少、湧水の涸渇などが生じていることから、平成21年月に「柳瀬川流域水循環アクションプラン」を策定しております。



自由学園記念講堂にて (表彰式)

行政や川づくり団体の取り組みの中で、総合治水対策・水循環再生について行動が起こせるよう、連絡会の中でも情報提供や意見交換を行っていきたくと考えています。活動には、川づくりに関する勉強や現地見学の機会があります。どなたでも連絡会に参加できますので、参加をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

※第1回～第3回新河岸川流域川づくり連絡会は、5月～7月に開催されました。

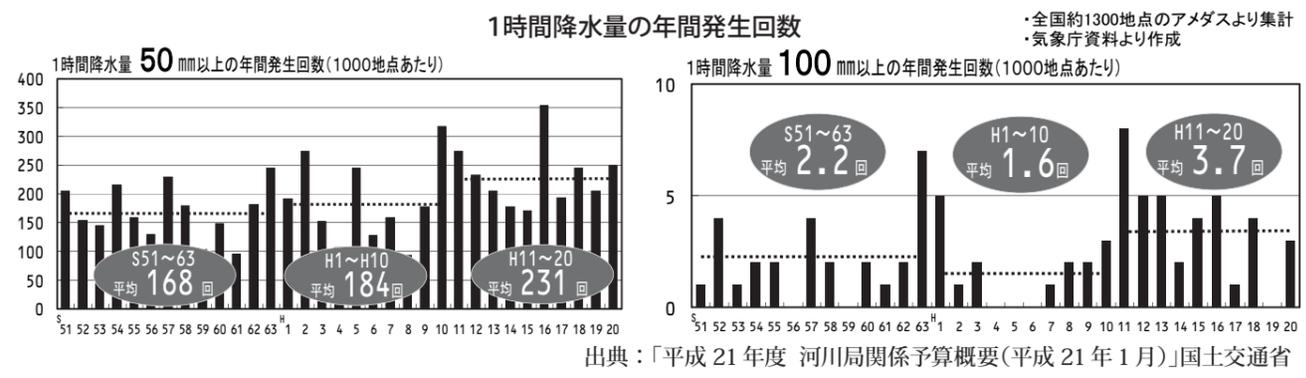
※上記の日程は都合により変更されることがあります。



《ゲリラ豪雨にご用心!》



みなさんは「ゲリラ豪雨」とよばれている局所的な集中豪雨が最近増えていることをご存知ですか? 気象庁が「滝のように降る雨」とする1時間降水量50mm以上の雨は、平成20年までの過去10年間に年平均231回。その前の10年間より1.2倍以上増えています。1時間降水量100mm以上の「恐怖を感じる雨」では、1年間に1.6回だった降雨回数が、ここ10年で3.7回と2倍以上に急増しています。このゲリラ豪雨に備え、国土交通省関東地方整備局では、集中豪雨により水没する恐れがあるアンダーパスを示した「道路冠水箇所マップ」を作成しています。また、今回の特集「水豊かな、安全・安心なまちへ 健全な水循環を取り戻そう!」もゲリラ豪雨による被害を軽減するヒントになるかもしれませんので、ぜひ参考にしてください。



流域の川をたずねて(4) ~舟運の文化を伝え残す~

- ♪ハア～九十九曲り～ あだではこせぬ～ 通い舟路の三十里～ アイヨノトキテ夜下りカイ
- どこかで聞いたことあるんだけど…何だっけ?
- 川越舟歌(千住節)だよ。新河岸川の三十里、約120kmの道のりを一昼夜かけて移動していたとき、船頭たちが眠気覚ましや、客を楽しませるために歌ったそうだよ。
- 思い出した!春、舟に乗ったとき聴いたよ。
- 毎年4月29日に開かれる「新河岸川への集い」のときだね。新河岸商栄会や地元有志のみなさんのおかげで、今年も舟が浮かんだんだね。船頭さんの歌はどうだったかい?
- 不思議だったよ。乗り物を操縦しながら歌うなんて今じゃ絶対やらないし。
- 舟運が無くなれば消えてしまう文化、それが舟歌。今、日常生活の中で舟歌を聴くことはまずないよね。だけど、年1回でも舟歌を聴くと、川は人々の生活の一部だったってことがつくづく実感できるね。



現代によみがえった舟運 (社団法人小江戸川越観光協会提供)



みず ゆたかな、安全・安心なまちへ

健全な水循環を取り戻そう！

みなさんは、空から降ってきた雨水がどこに行くのか知っていますか？夏でも川の水が枯れないのはどうしてでしょうか？そんな疑問を解く鍵になるのが、「水循環」という、自然の中で繰り返される水のサイクルです。この水循環は私たちの暮らしにも深く関わっています。

私たちが水循環に与える影響、それによって起きる問題、今私たちができることを、一緒に考えてみませんか。

ここから 川で水あそび！

でも、それだと晴れの日が続いたら水がなくなっちゃう。

ところで川の水ってどこから来るのかな？

川に雨が降るから水があるんじゃないかな？

でも、それだと晴れの日が続いたら水がなくなっちゃう。

蒸発

しみこむ

川へ海へ

ア？

川の底から水が湧き出ているよ！！

なるほど！地面にしみこんだ水が川にでてくるんだね。水循環ってだいじだね！

ぼくらは町や林に着陸していちど地面にしみこんだんだ。

ぼくは林から来たよ！

ぼくは町から。

ぼくたちアマミス！どこから来たかって？

それでは川への出口(湧水)を見つけてさっき出てきたの。

自には見えないけど地面の中にはぼくらの仲間がたくさんいるんだ。

そのあとは、地下水になって旅をしたよ。

ぼくらアマミスは、雨として降ったあと川になって海に行くよ。やがて蒸発して雲になって、また雨になって地上に戻ってくるんだ。ぼくらの旅のことを**ミスジュンカン**と呼んでいるよ！

新河岸川の現状と課題

私たちが暮らす、新河岸川流域は、昭和30年代後半から急速に都市化が進み、緑地や農地が宅地や舗装などに変わってしまいました。このため、都市化される前は土に染み込んで地下水としてゆっくり地表に出てきていた雨水が、一気に排水溝や下水を通して川に出てくるようになりました。

晴天が続くと・・・

地下水の量が減ったために、地表に出てくる水の量が減り、川の水も枯れてしまう現象も見られます。



晴天時、枯れかけている川の水

大雨が降ると・・・

排水溝や下水から水が溢れたり、川の水位が一気に上がっては氾濫する危険性があります。



洪水時、冠水した道路

健全な水循環を取り戻すための柳瀬川流域水循環アクションプランを策定しました

基本理念
人と水とみどりがつながりあう魅力ある流域づくり

緑地・農地保全

雨水貯留浸透施設普及

市民活動支援

新河岸川の支川である柳瀬川において、都市化によって悪化した水循環を再生するための行動計画、「柳瀬川流域水循環プラン」策定しました。このプランは、今よりも緑地や農地を減らさず、雨水が土に染み込む地面を守ったり、雨水を溜めて利用するといった取り組みを行政と市民が一体となって進めていくことで、人と水とみどりがつながりあう魅力ある流域をつくっていくものです。みなさんも一緒に、水循環再生に向けて「アクション」を起こしてみよう！

「柳瀬川流域水循環アクションプラン」<http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/yanase/ap/index.html>

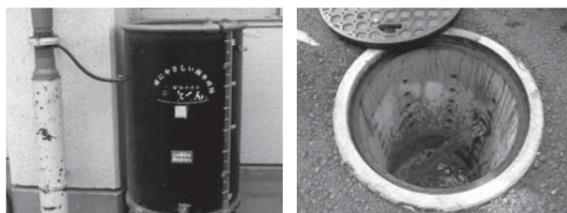
取組1 緑地・農地の保全

公有地化や借地をはじめとする緑地を保全するための制度や基金などを活用したり、市民農園や体験農園を開設することによって、緑地・農地の保全に取り組みます。



取組2 雨水貯留浸透施設の普及

公共施設や戸建住宅に雨水を溜めたり、土にしみこませる雨水貯留浸透施設の設置に取り組みます。また設置を呼びかけるPR活動なども進めていきます。



取組3 市民活動の推進

緑地の保全や川づくり活動を行っている市民や団体に対して、行政が支援やサポートを行うことで、行政と市民との連携を充実させていきます。

